

2024年12月7日開催 主催：ジェンダー読書会なごや

直面する学習会

中国人強制労働・万人坑を辿る

講演終了後に提出された質問票への回答 Q & A

講演終了後に多数の質問票が寄せられ、当日の質疑時間内ではほとんどの質問に回答できませんでした。それで、今回、文書にて改めて回答します。その中で、複数の人から寄せられた質問は一つにまとめています。あと、演題の枠外になる質問で私が詳しくない事柄などについては直ぐには答えることができないので、今回は回答を保留しています。悪しからず御了解ください。

2024年12月20日
青木茂

強制労働が行なわれていた当時のことに関わる質問

Q: 中国人被害者の連行・移動はどうやって行なったのか？

A: だまして「募集」したり、徴用工として召集・徴用したり、強制的に捕まえたり、捕虜を転用したりして集めた中国人を貨車（汽車）に閉じ込め（監禁し）、集めたところから労働現場（事業所）まで搬送した。

中国人被害者の移動（護送）では、主に中国人の把头（バートウ）集団（日本の暴力団のような「民間」組織）などが監視役を担う。また、日本軍（日本兵）が護送役を担うこともある。

Q: 中国人を奴隷労働者として扱っていたのか？

A: その通り。まったくの「物」扱いであり、死亡したり（怪我や衰弱などで）使い物にならなくなったりすれば「新品」（新たな中国人被害者＝労工）に置き換えるだけ。

Q: 強制労働の現場で反乱はあったのか？

A: たくさんあった。その結果、脱出（脱走）に成功した事例もある。しかし、多くの反乱や反抗は武力で鎮圧され、その後で凄惨な仕打ちを受けることになる。

Q: 強制労働の現場における死亡原因は？

A: 一番多い死亡原因は、過労と飢え（食料不足）による衰弱。あと、病気（伝染病）、事故による怪我、虐待や暴行など。

現在の中国に関わる質問

Q:被害の歴史を残すことは、中国でどのように位置付けられているか？

A:非常に重要なことだと位置付けられている。各種の等級（国立・省立・県立などなど）の档案馆（図書館あるいは研究所のような施設）が星の数ほどあり、それぞれが、文書や写真などの史料（資料）や物証・証拠品などを徹底的に収集し、厳格に保管管理している。

一方で、無数にあった万人坑の多くは消滅している。あらゆる歴史や全ての史跡を保存することは物理的・現実的に不可能ということなのだろうが、侵略の象徴である万人坑が消えてしまうことを私は残念だと思っている。

Q:中国政府はどういう立場で万人坑を見ているのか？

A:日本による侵略の残虐性や被害規模の大きさを示す重要な証拠として重視している。しかし、星の数ほどある万人坑の全てを保存することは物理的あるいは経済的に不可能なので、歴史的に重要なところや教育的価値の高い万人坑などを選定（厳選）し、選定した万人坑を非常に大切に保存し徹底的に管理している。

Q:記念館の費用（建設・運営など）は誰が出しているのか？

A:国・省政府・県政府などが、それぞれが管轄する施設に資金を拠出し、保全を進めたり記念館を建設し運営するなどしている。地方政府が管轄している史跡（施設）でも、重要性が高いと判断されると、省政府や国の管轄に格上げされる。

一方で、民間の個人が資金を拠出して建設し管理・運営を行なっている民間施設もたくさんある。その中で、四川省成都市の近郊にある建川（けんせん）博物館集落は、おそらく最大の施設だと思われる。実業家の樊建川（はんけんせん）氏が資金を投じて2005年に構築した建川博物館集落はその後にも拡張を続け、2015年の時点で敷地面積33万平方メートル、30棟にもなる博物館建屋の総建築面積は10万平方メートル、収蔵品は800万点余にもなる。

Q:学校で万人坑について教えているか？

A:歴史をきちんと丁寧に教えている。その中で万人坑のことも当然教えている。そして、その歴史教育の中で、「日本による侵略で中国の民衆は甚大な被害を受けたが、日本の民衆も侵略戦争の被害者だった」という指導がきちんと行なわれ、この考え方が中国の指導者だけでなく一般庶民にも徹底して共有されている。日本では、「反日教育」という言葉が用いられることが少なからずあるように思われるが、それとは無縁の、歴史事実に基づく真摯で誠実な教育が行なわれているのが中国の実態であり現状だ。

Q:中国の政府や政治家は日本に賠償を求めないのか？

A:1972年の日中国交正常化時に、日本に対する損害賠償を放棄（免除）すると中国が宣言する中で日本と中国の国交が結ばれ、それまで断絶していた日中関係が正常化した。

この日中国交正常化を実現させたのは、「中国が賠償を求めれば、苦勞するのは日本の民衆だ。日本の民衆に苦勞を強いることは望まない」と考える当時の周恩来首相による本当に寛大な決断だ。周恩来首相によるこの大英断は、どれだけ感謝しても感謝しきれぬものではなく、日本人は決して忘れてはならない。その約束を守っているので、中国政府が日本に賠償を求めることはない。

Q:生き残った人はどういう気持ちで戦後を過ごしているのか？

A:生き残った人の気持ちを私が代弁することはできません。質問者が自ら考え想いをめぐらせ、被害者の心情に真摯に向き合ってください。

Q:日本人として万人坑を訪問したときの現地の反応

A:どの万人坑を訪ねても大歓迎してくれる。そして中国の人たちから、万人坑の現場で見たことを日本人に伝えてほしいと言われる。中国の人たちは、日本人が凄惨な史実を知り加害責任に真摯に向き合うことを願っている。

現在の日本に関わる質問

Q:万人坑を研究する専門家が日本にいないのは何故か？

A:素人の私には理由が分からない。侵略の本質（根本的原因）であり被害規模も膨大（犠牲者だけでも1000万人）である万人坑（中国人強制労働＝財閥・企業家による経済略奪）について研究されないのは、歴史（近現代史）に関わる研究者や学会の怠慢だと私は思っている。

小生（青木）のことに関わる質問

Q:万人坑を調査したきっかけは？ やる気はどこから？

A:2000年にたまたま参加した訪中団が、内蒙古自治区のハイラルにある沙山万人坑を訪れたことが万人坑に関わるようになる直接のきっかけ。

やる気の源泉は、万人坑に関わる研究者が日本になくて、万人坑に関わる情報が日本にはほとんど（全く）無いこと。私が情報や警告を発信しなければ、この重大問題が埋もれてしまうと思っている。

それで、この問題への関心を高めるため、学習会や講演会を企画してください。どこにでも駆けつけます。また、拙著の普及に御協力ください。私からみなさんへのお願いです。

Q:中国現地での移動手段は？

A:「万人坑を知る旅」訪中団など団体で組織する訪中団に参加しているので、飛行機と高速鉄道以外は全て貸切りの観光バス。